



古今狂歌集  
天

特別  
~9  
4511  
1







Handwritten text at the top of the left page, including a decorative flourish.

Main body of handwritten text on the left page, starting with a large initial character.

Second main section of handwritten text on the left page.

Third main section of handwritten text on the left page, ending with a large initial character.

First main section of handwritten text on the right page.

Second main section of handwritten text on the right page.

Third main section of handwritten text on the right page, including a decorative flourish.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a large initial character, possibly 'A' or 'B', followed by several lines of text. The script is dense and characteristic of historical Arabic or Persian manuscripts. There are some faint markings and a small circular symbol near the beginning of the text.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a large initial character, possibly 'A' or 'B', followed by several lines of text. The script is dense and characteristic of historical Arabic or Persian manuscripts.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a large initial character, possibly 'A' or 'B', followed by several lines of text. The script is dense and characteristic of historical Arabic or Persian manuscripts.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a large initial character, possibly 'A' or 'B', followed by several lines of text. The script is dense and characteristic of historical Arabic or Persian manuscripts.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a large initial character, possibly 'A' or 'B', followed by several lines of text. The script is dense and characteristic of historical Arabic or Persian manuscripts.













春のさかすかにあけぬる花の香も  
あはれなるをばかきとてはなれぬ  
かたきとてはなれぬをばかきとてはなれぬ  
たゞ世の中をめぐりてはなれぬ  
ゆゑはなれぬのこゝろに  
あはれなるをばかきとてはなれぬ  
かたきとてはなれぬをばかきとてはなれぬ  
たゞ世の中をめぐりてはなれぬ  
ゆゑはなれぬのこゝろに  
あはれなるをばかきとてはなれぬ  
かたきとてはなれぬをばかきとてはなれぬ



戲言夷歌集卷第一

春歌上

あはれなるをばかきとてはなれぬ  
かたきとてはなれぬをばかきとてはなれぬ  
たゞ世の中をめぐりてはなれぬ  
ゆゑはなれぬのこゝろに  
あはれなるをばかきとてはなれぬ  
かたきとてはなれぬをばかきとてはなれぬ  
たゞ世の中をめぐりてはなれぬ  
ゆゑはなれぬのこゝろに  
あはれなるをばかきとてはなれぬ  
かたきとてはなれぬをばかきとてはなれぬ

浅草菴市人

浅草菴市人梅候等や三坊ありらん

小松川といふ所ありあり 柏系亭五枝栄

市川の安とやまもいふらんらん、こもりの小松川村

千種菴霜解

千種菴霜解も此のこもりありあり

浅茅菴守舎 上野買問人住

千柳菴久門

千柳菴久門

千柳菴久門のこもりありあり

題

千數菴矢藤

千數菴矢藤をば横つるよむ

浅流菴法志

浅流菴法志をばよむるよむる

千枝栄

千枝栄をばよむるよむる

浅律菴永世

浅律菴永世をばよむるよむる

田達義

田達義をばよむるよむる

松

土大根

松の根を煮て酒に漬けて飲むと、土大根の山松

常蘭

常蘭の根を煮て酒に漬けて飲むと、常蘭の根

矢蘇

矢蘇の根を煮て酒に漬けて飲むと、矢蘇の根

室山守 上野国妙義住

室山の根を煮て酒に漬けて飲むと、室山の根

茶揚菴干則

茶揚菴干則の根を煮て酒に漬けて飲むと、茶揚菴干則の根

霜解

霜解の根を煮て酒に漬けて飲むと、霜解の根

干則

干則の根を煮て酒に漬けて飲むと、干則の根

浅路菴越方 上野国藤岡住

浅路菴越方の根を煮て酒に漬けて飲むと、浅路菴越方の根

柄巻人 陸奥国仙臺住

柄巻人の根を煮て酒に漬けて飲むと、柄巻人の根

永世

永世の根を煮て酒に漬けて飲むと、永世の根

あつてつるもまをさしきりてさう

浅倉庵三笑 三河国新堀住

あつてつるもまをさしきりてさう 凡の秋も白のあは

浅湖庵照景 同右

もらふ石と、柳を海うをさしきりてさう

逢義

まの秋の柳をぬき、まをさしきりてさう

秋毫堂高随

まの秋の柳をぬき、まをさしきりてさう

守舎

まの秋の柳をぬき、まをさしきりてさう

あつてつるもまをさしきりてさう

千雀庵盤見

あつてつるもまをさしきりてさう

浅瀬庵永喜

あつてつるもまをさしきりてさう

一在斎井 上野国前橋住

あつてつるもまをさしきりてさう

山守

竹ふのさうひんまきさうひんまの祿のむらさひのいん

野中清水

五峰のあきさうひんまきさうひんまの祿のむらさひのいん

清志

残る家の新塔の塔の記をよやとさうひんまの祿のむらさひのいん

日ノ菴む満

雪のさきさうひんまの祿のむらさひのいん

隅田川のさきさうひんまの祿のむらさひのいん

あせ川のさきさうひんまの祿のむらさひのいん

石橋のさきさうひんまの祿のむらさひのいん

夕のさきさうひんまの祿のむらさひのいん

生僻窓蔵人

中庭のさきさうひんまの祿のむらさひのいん

松樓菴言人

鞠拾の程もさうひんまの祿のむらさひのいん

唐緑糸彦

はつら般多の白の江中の流はつら鬼の如房ふつら

秋の屋色良

海ま子の別のさきさうひんまの祿のむらさひのいん

平井亭賦歌 上野国藤岡住

まじりまじりよ裡も〜

まの山歌と云々 市人

あまのつゆ〜

か〜

淡香菴 咲樹 下野国宇都宮

松島や〜

夜雨亭 疑根 同九

あまの秋と〜

一粒亭 万孟

旅のいそ〜

たい〜 一首亭歌 宿 盛 國 舟 堀 往

あまの〜

三輪里人 上野大間々住

あまの〜

萩屋 公莉

あまの〜

淡花菴 皮人 三河国故原住

巨魁〜

孝徳 職人 二十とある

栄

あまの〜



歌よみ

鯨見

百世のしよもほちのめとふ梅のさうり

鶴友呼

春のさうりしよもほちのめとふ梅のさうり

四辻門守 上野大間々住

梅の白のさうりしよもほちのめとふ梅のさうり

栄法師

梅のさうりしよもほちのめとふ梅のさうり

酒屋少春安

梅のさうりしよもほちのめとふ梅のさうり

川のほとりち柳のさうり

梅のさうりしよもほちのめとふ梅のさうり

梅のさうりしよもほちのめとふ梅のさうり

梅のさうりしよもほちのめとふ梅のさうり

梅のさうりしよもほちのめとふ梅のさうり

梅のさうりしよもほちのめとふ梅のさうり

皮人

梅のさうりしよもほちのめとふ梅のさうり

梅のさうりしよもほちのめとふ梅のさうり

梅のさうりしよもほちのめとふ梅のさうり

梅

大衆のうぶおの梅をうぶうぶうぶうぶうぶうぶうぶの  
あうせうせうせうせうせう  
うう人

五丁里の梅をうぶおの梅をうぶうぶうぶのうぶうぶのう

うぶうぶ

温古亭又通 上野国富岡住

そのうぶうぶうぶうぶうぶうぶの梅の梅の梅をうぶうぶ

うぶうぶうぶの梅の梅をうぶうぶ

新の梅をうぶうぶうぶうぶうぶうぶの梅をうぶうぶ

たうぶうぶ

一葉郷辛崎

梅をうぶうぶうぶうぶうぶうぶの梅をうぶうぶ

浅波菴河鳥 下總国鉿子住

梅をうぶうぶうぶうぶうぶうぶの梅をうぶうぶ

花本坂守

梅をうぶうぶうぶうぶうぶうぶの梅をうぶうぶ

琴松菴下住

梅をうぶうぶうぶの梅をうぶうぶ

竹の屋貞直

梅をうぶうぶうぶうぶうぶうぶの梅をうぶうぶ

吾直菴喜楽

梅をうぶうぶうぶうぶうぶうぶの梅をうぶうぶ

千束菴氏人

あまのよきやうと老のなごころのまほらさるまきの節  
伯糸のなごころまほらさるまきのまほらさるまきの節  
つとめとよめ

小金田丸

日のまほらさるまきのまほらさるまきのまほらさるまきの節  
つとめとよめ

さうえ

梅のまほらさるまきのまほらさるまきのまほらさるまきの節

戲言夷歌集卷第二

春歌下

題志す

六樹園飯盛

あまのよきやうと老のなごころのまほらさるまきの節  
あまのよきやうと老のなごころのまほらさるまきの節

あまのよきやうと老のなごころのまほらさるまきの節  
あまのよきやうと老のなごころのまほらさるまきの節

あまのよきやうと老のなごころのまほらさるまきの節  
あまのよきやうと老のなごころのまほらさるまきの節

あまのよきやうと老のなごころのまほらさるまきの節  
あまのよきやうと老のなごころのまほらさるまきの節

千澤堂浅記

〇二

送まゝに

監長人

本の上もともにもいふにふしむる事なる多に

藤長房 上野大間々住

吸筒の底もまじけに横に心の

下住

はくは本の上の月乃よしの張るをすきたる 滋賀の

送まゝに

西志樓有安

王権の

本の上

花端

花端

花端

花端

花端

花端

花端

花端

歌一十寸

鶴巢籠

上野大間之住

志ほむこ母のきさへほと見りて舞て望み浦人

松春川

うしほむ七里溪より直のちつこころをきかぬ

野邊亭廣道

祐ふとよそなる秋のおもひなかつて身をふる小町雛

川守

硝子の夕もとくしる多海よきをもとえぬおなほおのころ

ちいさなつらつらりき女のせよひいつくのもるくさ

廣道

かきくちあめ

たのしみ

繁門

妻ふらふらもの尾とくしるおまのこころのこころ

浅春菴安良 下野国鹿沼住

しるしあつたかたの編の歌はかからさうすしこまの面

しるしあつたかたの編の歌はかからさうすしこまの面

瓢亭百糸 上野国山中住

しるしあつたかたの編の歌はかからさうすしこまの面

浅葉菴音芳

かたのむねのしるしあつたかたの編の維るはまきりしうすしこま



高随の月

久門

久門の月

田中堂野人

上野園下飯田住

田中堂野人の月

田中堂野人の月

田中堂野人の月

田中堂野人の月

田中堂野人の月

田中堂野人の月

田中堂野人の月

田中堂野人の月

田中堂野人の月

田中堂野人の月

田中堂野人の月

田中堂野人の月

田中堂野人の月

田中堂野人の月

らんぎんてんよあ

頁番則次

らんぎんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

らんぎんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

らんぎんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

らんぎんてんてん

長房

らんぎんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

花より

山寺の仁まると次んてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

らんぎんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

らんぎんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

らんぎんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

らんぎんてんてんてん

行をよんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

らんぎんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

玉川お桂の枝よんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

らんぎんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

らんぎんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

らんぎんてんてんてんてん

窓照雪

らんぎんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん



國中舎深住 上野國峰在

他さうころのむいまるをゆとそえさう小田のあのかげむさ

志け見

やままがーのちましらあんせんあまのまのたふ田

川のやまよかまうこのけけりさうとあ

つゆまらむいむさう堀井右のこのかへよまうり

人のまらむいむさうけけりさうとあ

非ばようこのまのまのちまらりや祿ようりてそ

たけりさう

あふ義

あふ義

坂守

むいむいむいむいむいむいむいむいむいむいむい

むい道

むいむいむいむいむいむいむいむいむいむいむい

むいむい

むいむいむいむいむいむいむいむいむいむいむい

むいむい

田丸

田丸むいむいむいむいむいむいむいむいむいむい

むいむいむいむいむいむいむいむいむいむいむい

二七

巻一

千代栄行 上野大間々住

逆さで追ひしよむ目くしのつらみくらとぬきのおろそり

里人

しんぞと二話さるゝまをまてまをうまの別もなぬきの日

船友乗 上野藤岡住

乾のこゝ酒も善まらちこせに二の碑うもおもふまの日

田まゝ

そらん枕もまきまのこのむをせこゝ勘定の外

たのしのこゝまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ

杏林亭盛人

まきあけの板のまもまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ

巻二

つゆ

まもえゝまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ

桜雪

天人のおこたゝ愛うふにまゝいふまゝいふまゝいふまゝ

まゝいふまゝいふまゝ

こゝろえ

花の香のまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ

まゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ

春鶯菴敷有

つれいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ

あふたふらふらふら

矢張り

あふたふらふらふらあふたふらふらあふたふらふらあふたふらふらあふたふらふら

あふた

あふたふらふらふらあふたふらふらあふたふらふらあふたふらふらあふたふらふら

戲言夷歌集卷第三

夏歌

たふらふ

はあらのむら

あふたふらふらふらあふたふらふらあふたふらふらあふたふらふらあふたふらふら

大根

あふたふらふらふらあふたふらふらあふたふらふらあふたふらふらあふたふらふら

河鳥

あふたふらふらふらあふたふらふらあふたふらふらあふたふらふらあふたふらふら

不船漆

あふたふらふらふらあふたふらふらあふたふらふらあふたふらふらあふたふらふら

民人

山よのけう垣根の澄を花もあうらん卯のよあ〜

澹洲橋金塔

まはる金のすけのい〜む日〜る〜る〜る〜る〜る

歌宿

柳をぬら〜るのい〜るい〜るい〜るい〜るい〜るい〜る

千柳巻三かど

竹のま〜るま〜るま〜るま〜るま〜るま〜るま〜る

坂

月影と〜るあ〜るあ〜るあ〜るあ〜るあ〜るあ〜るあ〜る

干則

あ〜るあ〜るあ〜るあ〜るあ〜るあ〜るあ〜るあ〜る

市人

あ〜るあ〜るあ〜るあ〜るあ〜るあ〜るあ〜るあ〜る

安良

あ〜るあ〜るあ〜るあ〜るあ〜るあ〜るあ〜るあ〜る

歌

三條もやういふあはれなむらさきもかたの御座りていづれに

河さし

梅もちいひのほりあそびますあまのきもよほすてあそ

桐油庵雨守上野下飯田住

あそびますあまのきもよほすてあそびますあまのきもよほす

浅緑菴春告

あそびますあまのきもよほすてあそびますあまのきもよほす

あそびますあまのきもよほすてあそびますあまのきもよほす

あそびますあまのきもよほすてあそびますあまのきもよほす

あそびますあまのきもよほすてあそびますあまのきもよほす

あそびますあまのきもよほすてあそびますあまのきもよほす

四方歌垣

あそびますあまのきもよほすてあそびますあまのきもよほす

あそびますあまのきもよほすてあそびますあまのきもよほす

あそびますあまのきもよほすてあそびますあまのきもよほす

霜解

あそびますあまのきもよほすてあそびますあまのきもよほす

あそびますあまのきもよほすてあそびますあまのきもよほす

あそびますあまのきもよほすてあそびますあまのきもよほす

千雀菴まつけ

初はついでこの江にけりおのつて神さのうらみ

積善堂あま

おまの道々山の星月夜人のこせもええぬ多神

千救菴やま

あまの神さあまの神さあまの神さあまの神さ

まつけ

こまの女は後ハ小笠もいそいそと神さあまの神さあまの神さ

松梅亭金丸

せはしは秋とせはしは秋とせはしは秋とせはしは秋と

咲掛

添田は雲もやまの貝の名のけりて屏のこころあま

雄左丸

あまの神さあまの神さあまの神さあまの神さ

小金あま

あまの神さあまの神さあまの神さあまの神さ

まつけ

石山や名の雲もまづつふおやまの組はしり

竹系朱安

あまの神さあまの神さあまの神さあまの神さ

あま

喜樂

子お詠とらけをうまきき月のさりのあつらちの業  
西後移川いそと歌をよめ

三ヶ

舞のほとあつらちのさちちいりのさ  
たつら

いり男子仙もさつら三のさち移をいりおちか

三笑

歌おらつらいりさつらさつらさつらさつらさつら  
い

梅のさつらいりさつらさつらさつらさつらさつら  
真本の字

海草のさつらいりさつらさつらさつらさつらさつら  
富士とやけ子さつらさつらさつらさつらさつら

三せ

時つらもらさつらさつらさつらさつらさつらさつら  
松梅馬為塗 陸奥仙臺在

出ららのつらさつらさつらさつらさつらさつらさつら  
いりさつらさつらさつらさつらさつらさつら

歌垣

いりさつらさつらさつらさつらさつらさつらさつら  
いりさつらさつらさつらさつらさつらさつら

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



海の物も心とさうす 静所江居のこころの山王まつり

津月堂主人

時教あゝぬかの深くは所を多うあつた山王まつり

静一ら日

照景

こころ川の橋あつた流の上なまはるく流るる月のすゝさ

やぶら

なごころこころまはるくはなはるくはなはるくはなはるく

野人

やぶらあゝぬかの深くは所を多うあつた山王まつり

照景

一はなはるくはなはるくはなはるくはなはるくはなはるく

金埒

うらみあつたやこ大流をせもまはるくはなはるくはなはるく

福志けが

夏のうらみあつたのこころ口行とあつたつら行り

まげ

夕風とあつた天志やうもあつたはなはるくはなはるくはなはるく

浄風秋あつたはなはるくはなはるくはなはるく

うら

秋はよまをさ名をあつた夏の夜の風もあつたはなはるくはなはるく

大いらいら

三つ

松尾の海の家をこぼれおけうにちかしのさめしき下

あつちのさくらんぼも つかえ

あつちのさくらんぼのさくらんぼのさくらんぼのさくらんぼ

あつちのさくらんぼのさくらんぼのさくらんぼ

あつちのさくらんぼのさくらんぼのさくらんぼ

あつちのさくらんぼのさくらんぼのさくらんぼ

あつちのさくらんぼのさくらんぼのさくらんぼ

あつちのさくらんぼのさくらんぼのさくらんぼ

